

講演会企画

「転換期の教育学の課題ーオーストラリア中等教育の最前線より」

日時：2025年3月16日（日） 15:00-17:00

会場：東京外国語大学海外事情研究所
（研究講義棟 427 号室）

開催形態：対面+Zoom ハイブリッド開催

（ミーティング ID：857 3868 6973 パスコード：155175）

講演者

Paul Watson 氏
押田貴久准教授

使用言語：英語（日本語通訳あり）

企画の趣旨と目的

現在、教育学の分野において、知や学びの在り方、その教え方の転換が大きな課題となっている。大量の知識の暗記と受験対策に力点を置いていたかつての教育から、蓄えた知識や技能の利活用と新たな課題の発見と解決、さらに新たな価値の形成を目指すものへと、教育をめぐる価値は大きく転換しつつある。

本企画では、このような教育改革の取り組みにおいて最前線の試みを行っている西オーストラリア州パース郊外のカトリック中等教育学校 Emmanuel Catholic College 校長であるポール・ワトソン氏と、兵庫教育大学大学院の教育行政学研究者である押田貴久准教授を招待する。

ワトソン氏が現在オーストラリアの教育が向き合っている課題や、それらに対する新たなチャレンジと、その背景にある社会的・歴史的な文脈および今後の展望について講演し、押田氏がそれを日本の教育改革や教育行政の立場から解説する。ワトソン氏の語る学校改善に向けてこれまで乗り越えてきた困難や、自身の教育実践の中での特筆すべき事柄と、これまで多くの教育委員や教育行政官、校長との対話を重ねてきた押田氏の噛み砕かれた解説は、日豪間の教育の在り方のみならず、現在の高等・中等教育の在り方そのものに関して多くの知見を提供してくれるはずだ。

講演者略歴

ポール・ワトソン (Paul Watson)

Emmanuel Catholic College 校長。キャリアを通じ、西オーストラリア州の公立学校と私立学校の両方で、校長・副校長を歴任。革新的な実践経験を持ち、21世紀型教育の強力な推進者である。学習意欲を刺激し、学校運営と管理効率を高め、共同体意識を強化し、教育者のワークライフバランスを改善するため、学校における大幅な教育改革を強く提唱している。Edutech、National Future Schools、'ReLearn' Learnlife Barcelona - Innovation Education Festival、2022/23 National ACEL Conferences など講演多数。2022年の教育関係者ホットリスト、およびオーストラリア Edulpact リスト入り。2023年 ACEL WA Certificate of Excellence in Educational Leadership Award 受賞者。

押田貴久 (おしだ・たかひさ)

兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授。1973年埼玉県生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2012年宮崎大学大学院着任、2016年より現職。自治体の教育政策、教育行政を研究課題としており、地方教育行政や教育委員会、教育政策、教育制度、教育行政に関連し、論文・著書多数。

共催

オーストラリア学会関東例会
東京外国語大学海外事情研究所

連絡先

山内由理子 yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
松本浩欣 h-matsumoto@riseisha.jp